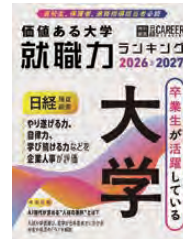


【全国1位の2冠】 「就職力&人材育成力」で北海道科学大学が全国トップにランクイン！

続きは
こちらをご覧ください



日本経済新聞社と日経HRが共同で実施した「企業人事に聞いた『卒業生が活躍している大学』調査2026-2027」が発表され、本学が「就職力ランキング(中小規模大学版)」及び大学の人材育成力ランキング(中小規模大学版)」の2つの部門において、見事全国総合1位を獲得いたしました。

出典：日経HR『日経キャリアマガジン特別編集 価値ある大学 就職力ランキング2026-2027』

第35回YOSAKOIソーラン祭りにおいて、北海道科学大学YOSAKOIソーラン部 「北海道科学大学～相羅～」が敢闘賞を受賞しました



今年度でYOSAKOIソーラン祭りへの出場が通算20回目となった北海道科学大学～相羅～は、6月10日(水)～6月14日(日)に札幌各所で行われた第35回YOSAKOIソーラン祭りにて、2026年度演舞「翔継ぐ(かつぐ)」を披露し、敢闘賞を受賞しました。

続きは
こちらをご覧ください

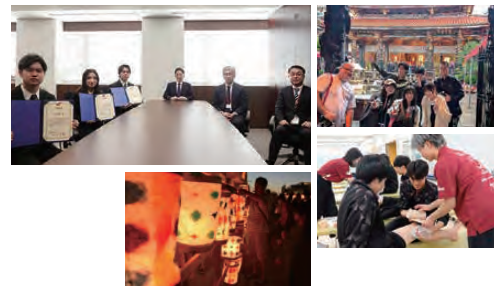


学校法人北海道科学大学「とことん、ひらこう。」寄付金ご協力をお願い

2025年4月から新ブランドビジョン「とことん、ひらこう。」を冠した、学校法人北海道科学大学「とことん、ひらこう。」寄付金の募集を立ち上げ、就学支援、自主活動支援、国際交流支援、地域共創支援、カーボンニュートラル推進支援の5つの事業について募集を開始いたしました。

また、個人の方への返礼品として、1回で3万円以上のご寄付に対し、卒業生、企業、連携自治体、共同研究先の商品の贈呈も行っております。

つきましては、諸事ご多端の折、誠に恐縮ですが、寄付の趣旨にご賛同していただき、卒業生、保護者、地域社会の皆様からのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



応募期間

2025年4月1日から
随時、募集

応募の対象

- 1口……………5,000円
 - 個人……………1口以上
 - 法人……………10口以上
- ※金額の多寡にかかわらずありがたくお受けいたします。

寄付の詳細につきましては、本法人の寄付金サイトにてご確認ください。

寄付金サイト > <https://ed.hus.ac.jp/donation/>

こちらからも
ご確認ください



北海道科学大学 HUS NEWS LETTER 2026年7月29日(第227号)



北海道科学大学

〒006-8585 北海道札幌市手稲区前田7条15丁目4-1
TEL: 011-688-2381 FAX: 011-688-2392
HP: <https://www.hus.ac.jp/>

+Professional

コミュニケーション力、課題発見解決力、自己実現力、ヒューマニティといった基盤能力を基に、専門性を身につけた人材を育成します。すべての設置校に共通する、わたしたちのスローガンです。

学校法人北海道科学大学
北海道科学大学高等学校
北海道自動車学校

HUS NEWS LETTER

Vol.50 / Hokkaido University of Science

みんなで作る てっぽくベースプロジェクト 進行中

みんなの毎日が知りたい！ 北科大生の1週間

05 | 学生の活躍 09 | 卒業生訪問
07 | 研究室から 10 | HUS調査隊



北海道科学大学 HUS NEWS LETTER 2026年7月29日(第227号)



みんなでつくる

てっぽくベース プロジェクト 進行中

プロジェクトの流れ

STEP
1

ネーミング検討

手稲駅前キャンパスの主となる建物に愛称をつけることからスタート。この土地の歩み、音の響き、言葉のイメージを大切に検討を重ね、「てっぽくベース」に決まりました。

STEP
2



てっぽくベースのロゴを制作

大学として手稲駅前キャンパスで体現したいことを伝え、ディスカッションした内容をもとに株式会社COMMUNEにロゴデザインを依頼。「オープンすぎるキャンパス」「ベースキャンプ」「共育・共創の場」という3つのコンセプトが凝縮されています。

STEP
3

ワークショップ

てっぽくベース1～3階の各スペースに名称をつけるワークショップを実施。管理するための部屋番号ではなく、ユーザーを想像して、一人ひとりが当事者視点で「どう使いたいか」の意見を出し合い、プレストを経て、呼び名を検討しています。

地域住民の声も 広くピックアップ

オープンキャンパスや地域説明会などでも、参加者に「手稲駅前キャンパスでしてみたいこと」を質問。プロジェクトメンバーだけでなく、地域の高校生や子どもたちの声も広く集め、キャンパスづくりに活かしています。

建設現場も 学びの場に！

メンバーは建設中の現場見学も複数回実施。キャンパスができていく過程も活用しています。

参加メンバー



TEPPOKU BASE PROJECT STAFF

プロジェクトメンバーは学生や教職員に加え、手稲を拠点に活躍するさまざまな分野の人たちが集結

- 在学学生 ●大成建設株式会社(空間設計・施工管理など)
- 教職員 ●株式会社COMMUNE(サイン計画・デザインなど)
- 医療法人 稲生会(環境のユニバーサル化など)

北海道科学大学は学校法人創立100周年を機に「とことん、ひらこう。」というブランドビジョンを掲げ、地域とともに歩む大学づくりに取り組んでいます。現在、手稲駅前に建設中の手稲駅前キャンパスでも、土地を取得する段階から「地域との境界を溶かす」「ベースキャンプ」という2つのコンセプトを軸に計画が進められてきました。そのコンセプトをハード面だけでなく、ソフト面でも体現しようと、学生や教職員はもちろん、地域と一緒に考えるプロジェクトが動いています。

プロジェクトは愛称やロゴを決めることから始まり、各スペースの名称を考えるワークショップなどを重ねてきました。2027年4月の手稲駅前キャンパス開設に向けて、まずはサインやフロアマップを形にしていりますが、このプロジェクトはキャンパスが完成しても、そこで終わりではありません。使いながら育て、地域の人たちの声を聞きながら、必要があれば変えていく。「てっぽくベース」のプロジェクトは、これからも手稲の人たちと力を合わせ、新しいキャンパスのあり方を創りあげていきます。

今後の展望

1階フロアのネーミングと空間づくり

1階は子どもから大人まで気軽に立ち寄れるような場所にしたいと考えているため、ネーミングにもその想いを反映させる予定です。キャンパス開設後も各空間のあり方について、ユーザー同士で議論を重ねてより良い場所に育てていきます。

「てっぽくベース」ロゴの活用

このロゴの要素を活かして、各スペースのサインやフロアマップの制作を進めていく予定です。建物以外においても、このロゴをどのほうに活用していくかこれから議論を重ねていきます。

言葉に頼らない 環境の構築

快適な居場所づくりにも取り組みたいと考えています。たとえば、人は緑が多いとリラックスできたり、照度を抑えることで自然と落ち着いて過ごせたりします。てっぽくベースではそうした心理や行動に働きかける環境設定もうまく取り入れ、注意書きや張り紙などに頼らない空間をつくっていきたいです。



MON-FRI

08:30

電車+バス通学

自宅から手稲駅まではJR、駅からはバスに乗り継いで40分。好きなJ-POPを聴きながら通っています。

バスに乗り遅れないように

MON-FRI

09:00-12:10

毎日みっちり勉強!

1年生は月～金まで毎日授業。ほぼ必修科目で、日によってコマ数も違えば、週によって時間割も変わります。

MON-FRI

12:10-13:00

昼食

仲良し9人グループで食べるのが定番。普段はお弁当ですが、大学近くの飲食店に行くこともあります。

Googleカレンダーでスケジュール管理

MON-FRI

13:00-16:10

90分の授業は座学が中心

授業では資料をタブレット端末にダウンロードして書き込んだり、ノートPCも活用しています。

授業はipadで

放課後

After School

休日はエスコン!

みんなの毎日が知りたい!!

北科大生の1週間

A Day & Week in the Life of a Student

薬学部
薬学科 1年

邊見 優妃さん

医療職として働く母の勧めもあって北科大高から進学した。課外活動は薬学部生の学生団体「Pharm*H部」に所属し、オープンキャンパスのスタッフにも参加。放課後は寄り道をせず、家族との時間を楽しんでいる。

MON-FRI

08:50

登校は車で30分

都市環境学科は車通学が全体の3~4割と多く、自分も母親の車を借りて通学しています。

MON/TUE

09:00-

卒業研究&資格勉強

授業がない日も休まず大学に来て、ゼミ室で卒業研究を進めたり、資格の勉強をしています。

WED

09:00-

授業は週2コマ

受けているのは水曜1限の「施工管理」と、木曜1・2限の「設計演習II」。4年生は自由な時間が増えます。

FRI

10:40-12:10

金曜にはSAも

教員の指示のもとで授業をサポートするSA(スチューデントアシスタント)も週1回、担当しています。

ゼミの
松田先生

研究内容は「地盤」がテーマ
土質試験に生成AIが活用できないかを研究しています。

MON-FRI

12:10-

昼食

お昼ごはんは、4年間ずっと母親の手作り弁当。一番のお気に入り「オムそば」です。

課外活動・ボランティア

1年生から体育局に所属し、現在は局長。ほかにボランティア活動のグラウンドまもり隊でも隊長、雪かき隊でもリーダーを務めています。

After School

放課後

ボランティア

現在
5年目!!



Student Activity

学生
の活躍

シュートフォームがとにかく格好いい!

全身の力をフル活用して戦う

スピードと迫力のチームスポーツ

会話の絶えないチーム環境で、
45年ぶりに1部リーグ昇格!

ハンドボールは1チーム7人制の球技で、全員でコート縦横無尽に走り回り、パスをつないでゴールを目指します。ボールは3歩まで持って歩くことができ、ドリブルを挟むとそれがリセットされることから「サッカーとバスケットを足して割ったようなスポーツ」と言われたりもします。攻撃と守備が絶え間なく入れ替わるテンポの速さも特徴で、飛んだり投げたりもしながらずっと走りっぱなし、全身をくまなく使う競技です。

普段の活動は週2〜3回、1回につき2〜3時間の練習を行っています。パスやキャッチ、シュートといった基礎練習を欠かさず、そこから2対2、3対3と少しずつ人数を増やしながら実戦的な練習に移

行し、最後は試合形式の練習で締めています。

北科大のハンドボール部は北海道の2部リーグに所属しているのですが、昨年春に私が部長に就任してからは「1部リーグ昇格」を目標に、大きく3つのことを変えました。1つ目は練習コートです。それまでは体育館の半面を使うことが多かったのですが、実際の試合は全面を使用します。半面に慣れてしまうと走る量も体力の使い方も全然違ってきますので、全面を確保できるようにしました。さらに1部リーグで戦うにはより実力の高い相手と経験を積む必要があると考え、2つ目の改革として社会人チームとの練習試合を積極的に増やしました。そして3つ目に取り組んだのが、コミュニケーションの強化です。練習中に声を掛け合う機会を意識的に増やし、練習試合のあとは必ず振り返りのミーティングも設けて、うまくいかなかった部分をチーム全

員で話し合うようにしました。話し合いを重ねるうちに試合中にも自然と声が出るようになり、1人のミスをみんなでフォローする意識がチーム全体に根付いていきました。会話が増えたことで、チームの連携が明らかに変わりましたし、そうした積み重ねが実を結び、昨秋の大会でついに45年ぶりとなる1部昇格を果たすことができました。

1部には札幌大学、札幌国際大学、北海道大学などの強豪校がそろっていますが、今季はまず1つでも多く勝ちを積み重ねることが目標です。毎年行われている東北工業大学との定期戦も大切な一戦で、昨年は惜しくも敗れてしまったので、今年こそ勝って仙台を楽しんで帰ってきたいと思っています。そしていつかはインカレに出場できるよう、後輩たちに夢を託していきたいです。



ことがあれば経験者の先輩たちが丁寧に教えてくれるので、一緒に上手になっていける環境が整っています。なによりシュートはキーパーも含めてどのポジションの選手でも打てるので、誰でもヒーローになれる瞬間があります。大学で何か新しいスポーツに挑戦したい人はもちろん、身体を思い切り動かしたいという人も、ぜひ気軽にハンドボールを体験しに来てみてください。

経験がなくても成長できる!
それもハンドボールの魅力です。

私は高校からハンドボールを始めたのですが、きっかけは部活の体験で見た先輩たちの姿でした。空中高く跳び上がってシュートを放つ姿がとにかく格好良く、他のスポーツにはない憧れを抱き、試合のスピード感やボールが叩き込まれる瞬間の迫力にも圧倒されたことを今でも覚えています。

難しそうに見えるかもしれませんが、ハンドボールは経験がなくても十分に始められる競技です。実際、高校までは卓球をしていて大学からハンドボールを始めたのに、今ではスタメンとして欠かせない存在になっている同級生がいます。ほかにも大学で初めてハンドボールに触れた後輩が何人もいますし、わからない

薬学部
薬学科 4年
部長
佐々木 康成さん

ACTIVITY CONTENT

走る・飛ぶ・投げる動作を繰り返すことで筋力はもちろん、跳躍力や反射神経、動体視力など、さまざまな身体能力が自然と鍛えられる。また、各自でも筋トレを行い、日々の練習と並行して競技力の向上を目指している。

DATA

ハンドボール部

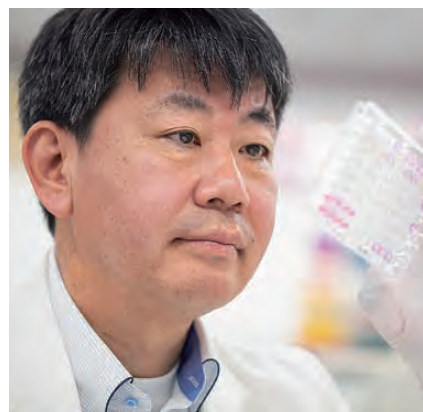
[部 室] 体育館2階

[部 員 数] 31人

[発 足] 1979年



天然素材の力を薬学の知見でひもとき、 食品・化粧品素材として社会に実装する



薬学部 薬学科
若命 浩二 教授

天然素材の機能を広く活用できるよう「医薬品」ではなく「食品」を研究

――まずは「天然由来の機能性素材」を研究テーマに選んだ理由からお聞かせください。

私はもともと薬学部出身で、漢方薬の原料となる生薬の研究をしていました。ただ、薬の研究というのはお金と時間が膨大にかかります。自分の研究したものが世に出る確率はほとんどゼロに近いのが現状で、それでは研究の成果が社会になかなか届きません。そこで、もっと早く社会実装できる方法はないかと考えて始めたのが、薬の研究よりハードルが低く、普及しやすい「食品」としての素材研究でした。厚生労働省では「医薬品」と「食品」を区別する「食薬区分」というルールがあります。例えば

同じみかんの皮でも漢方素材「陳皮」として研究すると「医薬品」になりますが、「食品」として研究すれば健康食品や化粧品の素材として使うことができます。「食品」分野の研究は農学部や水産学部が手がけることが多いですが、薬学部には薬の開発ロジックを知っている強みがあるため、成分分析や薬効の検証において、より高い精度の研究ができます。



▲発表した論文



北科大で行われている研究の最前線をクローズアップ！

研究室から IN THE LABORATORY

今も残る養蚕産業の資源に着目し、 桑の葉が持つ新たな機能を実証

――今も続けられている「桑の葉」の研究はどのようなきっかけからスタートしたのですか？

2015年、東京農業大学の知り合いの先生が進める「ニューシルクロードプロジェクト」に加えていただいたことが始まりです。日本でかつて盛んだった養蚕産業は、蚕に桑の葉を食べさせて繭を作っていました。桑の葉を育てる農家や農地は産業が衰退した今もそのまま残っています。そうした資源を改めて社会の役に立つ素材にしようというプロジェクトで、私は桑の葉の成分と薬効を探る研究で参加しました。桑の葉に含まれる「デオキシノジリマイシン」は糖尿病の薬の原料として知られています。糖尿病はメタボリックシンドロームと密接な関係があることから「メタボにも効くのでは？」と仮説を立て、メタボ状態にしたネズミの餌に桑の葉を加えて動物実験を行ったところ、脂肪肝の抑制、さらに肝細胞癌への移行も抑えることが判明し、それぞれ論文として発表しました。

――研究の成果が「教授の青汁+B1乳酸菌」という製品になったと聞いています。

桑の葉を手軽に摂取できるよう、まずは緑茶を作る技術を活用して水に溶けやすい粉末を作りました。当初はお菓子やかき氷にふりかけることを想定していたのですが、研究開始から3年が経ったころに天然由来のサプリメントを展開するナチュレ・ホールディング社に青汁として製品化していただきました。



▲桑のかき氷

製品化された青汁▶



北と南の植物が秘める力を探る、 老化予防に向けたさらなる取り組み

――現在は「ビデンスピローサ」というハーブの研究に力を入れていると伺いました。

桑の葉に限らず、私の研究では「抗酸化」と「抗炎症」が一貫したテーマになっています。WHOも提唱しているように、人間の老



◀ビデンスピローサ

化現象は酸化と炎症が深く関わっており、それを抑えられれば老化予防につながると考えられています。そこで着目したのが、北と南の国の植物ほど抗酸化・抗炎症の活性が強い傾向があるということでした。紫外線の強い環境で自分を守るために特殊な成分を蓄えることが要因で、大学着任当初に世界中の植物約500種類でスクリーニングを行った際、際立って強かったのが宮古島のハーブ「ビデンスピローサ」でした。現在は筑波大学と栽培農園を有するウメケン社と共同で、紫外線による炎症をビデンスピローサが抑える仕組みを解明すべく、動物実験を行いながら研究しています。

――北海道の天然素材として、ライラックの乳酸菌についても研究されているのですか？

そちらは大学近くの銭函にあるアテリオ・バイオ社との共同研究です。同社はライラックの花から単離する乳酸菌を「ライラック乳酸菌」と命名し、大量培養する技術を持つ会社で、私はその乳酸菌が放出する「エクソソーム（細胞外小胞）」の働きに着目して研究しています。エクソソームは細胞が外に放出するとても小さな微粒子で、体内のさまざまな活動をコントロールしていることが近年わかってきました。このライラック乳酸菌由来のエクソソームの働きを解明すべく、細胞・動物・ヒト臨床試験と段階を踏んで研究を進めてきました。その結果、アテリオ・バイオ社では製品化も進められているようで研究成果が社会に出始めています。

――さまざまな研究を続ける若命教授ですが、その原動力はどこからきているのでしょうか？

やはりデータとして結果が出てくること、そして製品化が早いところにあると思います。自分のやったことが埋もれてしまうのは残念ですから、社会に届けやすい天然素材の研究は、世の中の反応を確かめながら進められるのが醍醐味です。「まだ誰も気づいていない何か、この素材にあるんじゃないか」という直感を頼りに、これからも新しい素材に向き合い続けていきたいと思っています。





社会医療法人朋仁会
整形外科北新病院

岩崎 志乃さん

札幌市出身。2018年3月に北海道科学大学保健医療学部理学療法学科を卒業後、理学療法士として札幌市内の病院に勤務し、2021年より整形外科北新病院に入職する。急性期入院リハビリおよび外来リハビリを担当するほか、高校バスケットボール部へのトレーナー帯同やモーグル競技強化選手のトレーニング指導といったスポーツ現場での活動にも携わる。

GRADUATE VISIT

先輩の大学時代と

これからを聞く

卒業生訪問

整形外科単科の病院で
入院・外来のリハビリを担い、
スポーツの現場にも立ち続ける。

勤務先の整形外科北新病院は、上肢・下肢・脊柱すべての分野において専門性を持つ医師が在籍する整形外科単科の病院です。私は理学療法士として、術後早期の患者さんを担当する入院リハビリと、退院後の外来リハビリを年ごとに交代しながら担っています。入院リハビリでは患者さん一人ひとりとじっくり向き合い、外来リハビリでは予約制の限られた時間の中で効率的かつ的確な対応を行うなど、それぞれ異なる役割が求められます。両方の業務を経験することで、多様な場面に対応できる力や専門性を高めることができています。現在は入院リハビリを担当し、手術直後から退院まで、患者さんの日常生活動作の自立を目指して、機能の改善に取り組んでいます。



また、理学療法士という怪めの治療に関わるイメージが強いと思いますが、私は院内業務に加えて、高校のバスケットボール部にトレーナーとして帯同しています。さらに学生時代からモーグル競技の強化選手へのトレーニング指導も続けていて、身体機能の専門知識を持つからこそ、競技パフォーマンスの向上というトレーナー的な領域に関わることができています。

オリンピックの帯同経験を持つ
理学療法士との出会いが
この仕事を目指すきっかけに。

理学療法士とスポーツとのつながりを知ったのは、高校2年生の頃の怪我でした。小学生からバスケットボールを続け、将来も何らかの形でバスケットに関わりたと思っていたときにリハビリを通して出会ったのが、冬季オリンピックに帯同した経験を持つ理学療法士の方でした。競技の最前線でアスリートを支えている姿が純粋にかっこよく感じて、理学療法士という職種に憧れを抱くようになりました。

北科大に進学したのは、家が近いという理由で参加したオープンキャンパスがきっかけです。全国で活躍されている先生方が多く在籍し、先輩方もエネルギーに満ちあふれていて、専門的な知識だけでなく人間性も成長できそうだと感じて入学を決めました。

さまざまな経験をした学生時代。
そこで広がったつながりが
今の活動の土台になっている。

北科大では、とにかくいろんなことにチャレンジする4年間を過ごさせてもらいました。北海道マラソンの救護班、地域高齢者の体力測定のお手伝い、高校野球部のメディカルチェック補助など、学科に届くボランティアの案内があれば積極的に参加しました。さらに仲間と「プロジェクトF」という団体を立ち上げ、学生の自主的な活動を支援する大学の「夢プロジェクト」制度を活用して地域の方々に腰痛予防や運動指導の公開講座を開きました。その講座に参加した方が後日、別のイベントで「あなたに教えて



もらった運動、続けているよ」と声をかけてくれた瞬間は、今でも鮮明に覚えています。学生でも人の役に立てるのだと実感した出来事でした。

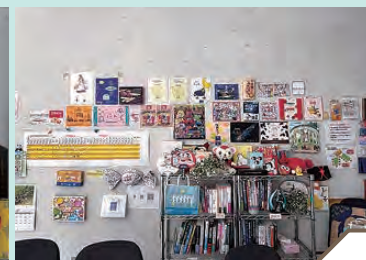
そうした活動を通じて出会った理学療法士の先生方の多くとは、今も交流が続いていて、院外でのスポーツ現場の活動に携わるようになったのも、学生時代にボランティアで知り合った方の紹介からでした。在学中に広げた人脈は、今の私の活動を支える大きな財産になっています。

臨床、研究。そして資格取得。
さらに知見と技術を深めて、
さらなる活動とフィールドへ。

卒業から7年目を迎えた今は、日々の臨床に加えて研究活動にも取り組んでいます。「膝前十字靭帯損傷」を少しでも減らせないかという思いから始めた研究ですが、北新病院に蓄積されている豊富なデータも活用しながら学会発表を重ねてきました。学会では道内外の整形外科領域で活躍している方々と交流できるほか、同じ北科大で学んだ同期と再会する場にもなっていて、彼らの発表に大きな刺激ももらっています。今後はこれまで発表してきた研究内容を論文として残していきたいです。

また、将来的な目標としては、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーの資格も取得したいと考えています。競技団体からの推薦が必要なうえ、毎年の活動実績がポイントとして積み上がっていく長期戦の資格ですが、院外でのスポーツ現場活動を地道に続けながら、挑戦していきたいと思っています。

未来デザイン学部 メディアデザイン学科 小松ゼミ



8号館の小松ゼミ室におじゃましました！
壁一面を飾る、歴代ゼミ生からのお土産たち。
ゼミオリジナルキャラクターの「Moka」とホワイ
イトボードの落書きも、学科の色を感じます♪

☒ クリエイティブを感じる！

北科大のぞいてみた！

今回は北科大にある個性あふれる2部屋を
pickupして調査してきました！

軽音楽部

こだわりの機材が詰まった部室！
楽器はもちろん、部員のみなさんの日常を感じるアイテムをたくさん見せていただきました！あたたかくて楽しい軽音楽部。定期演奏会も行っておりこれからの活躍にも大注目です！

☒ 今までカバーしたバンドが書かれた
黒板がポイント！



HUS調査隊 メンバー紹介！



趣味はイラストと楽器、サークルは茶道部やDigital Sound Project部に所属しています。ニュースレターでは、誰かの「なるほど!」「楽しい!」をお届けできるよう、これからもたくさん活動していきます！

未来デザイン学部
メディアデザイン学科 4年
上野 ななみ

取材して欲しい
ことなど
みなさんの声を
聞かせてください。



詳しくは、こちらまで！